

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
精神看護学概論	1	2	後期	看護師	本校専任教員	専任教員	15
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%			
評価方法	試験 学修意欲 レポート			教科書・参考資料	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院		
概要	<p>現代社会における精神保健、看護ニーズの高まりの背景を知る。 心(精神)の健康について成長発達、社会・環境との関連など広い視野で学ぶとともに精神保健医療福祉に関する法律・制度の歴史的な変遷をふまえて人権尊重・権利擁護、リハビリについて理解し、精神看護実践の基礎となる考え方や態度を養う。 精神障害者とはどのような人々か、その基本を理解し、精神看護学の基本的な考え方、知識を理解する。 感情労働の代償とそれを回避する方法を理解する。</p>						
目標	<p>1. 現代社会における精神保健、看護ニーズの高まりの背景を知ることが出来る。 2. 精神障害者に対して看護師に求められる考え方を理解することができる。 3. 看護における感情労働を理解し、メンタルヘルスを保つための方法が理解できる。</p>						
回数	授業内容・計画						
1	第1章 精神看護学で学ぶこと A 「心のケア」と現代社会 B 精神看護学とその課題 C 精神障害の体験と精神看護 D 精神看護学でなにを学ぶのか						
2	第2章 精神保健の考え方 A 精神の健康とは B 精神障害のとらえ方 C ストレスと健康の危機 D 心的外傷が精神の健康に及ぼす影響 E 回復を支える力						
3～5	第8章 ケアの人間関係 A ケア的前提 B ケアの原則 C ケアの方法 D 関係をアセスメントする E 患者－看護師関係における感情体験 F 対処のむずかしい場面 G 医療の場のダイナミクス						
6・7	終章 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス A 看護師の不安と防衛 B 感情労働としての看護 C 看護師の感情ワーク D 看護における共感の光と影 E 感情労働の代償と社会 F レジリエンスを高める						
8	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
精神保健	1	2	前期	臨床心理士 精神保健福祉士	積善病院 臨床心理士 同 精神保健福祉士	非常勤講師 非常勤講師	26 4
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%			
評価方法	試験 学修意欲 レポート			教科書・ 参考資料	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院		
概要	社会の動向と関連させて精神保健の看護課題を理解する。						
目標	1. 精神保健福祉法について理解できる 2. 精神障害者の人権について理解できる 3. ストレスと精神症状について理解できる						
回数	授業内容・計画						
1	1 精神保健の歴史 第7章 社会のなかの精神障害 A 精神障害と治療の歴史 B 日本における精神医学・精神医療の流れ						
2	2 精神障害の予防						
3・4	3 ライフサイクルと心の健康 フロイトの精神・性的発達論						
5・6	4 発達上の問題						
7・8	5 人格(パーソナリティ)理論						
9・10	6 ストレスと心の健康						
11・12	7 精神障害の分類 精神障害者の人権擁護 社会復帰の促進						
13	第7章 社会のなかの精神障害						
14	第10章 地域におけるケアと支援						
15	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
臨床心理	1	2	後期	臨床心理士	積善病院 臨床心理士	非常勤講師	15
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%			
評価方法	試験 学修意欲 レポート			教科書・参考資料	精神看護の基礎 医学書院		
概要	人間のこころ、精神活動に関連する領域の知識を基に、精神的存在としての人間理解を深める。 また、臨床における対象者の心理過程を理論的に理解する。						
目標	精神障害に対する治療法について理解できる						
回数	授業内容・計画						
	第6章 精神科での治療						
1	1 精神療法・心理療法		精神力動的療法				
2							人間性主義的精神療法
3							行動主義的療法 プリーフサイコセラピー
4							日本独自の精神療法 家族療法 箱庭療法 芸術療法 集団精神療法
	第4章 関係のなかの人間						
5	2 家族への援助						
	第3章 心のはたらきと人格の形成						
6・7	3 心理検査 知能検査 発達診断検査 人格検査 作業検査 神経心理検査						
8	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当 時間数
				職種	役職		
精神看護学援助論 (主な疾患と看護)	1	2	後期	医師 看護師	積善病院 医師 同 実習指導者	非常勤講師 非常勤講師	20 10
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%			
評価 方法	試験 学修意欲 レポート			教科書・ 参考資料	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院		
概要	精神疾患の診断・症状・治療および看護を理解するとともに、疾病及び入院が患者とその家族に及ぼす影響を理解する。対象にケアを提供するために必要な能力を養う。						
目標	1. 精神疾患のとらえ方を理解することができる 2. 精神症状を理解し、それに伴う看護を理解することができる 3. 精神障害に関する診断・検査・治療とそれに伴う看護を理解することができる						
回数	授業内容・計画						
1～5	第5章 精神科疾患のあらわれ方 B 精神症状論と状態像 C 精神障害の診断と分類						
6～9	第6章 精神科での治療 A 精神科における治療 C 薬物療法 D 電気けいれん療法その他						
10	第9章 回復を支援する A 回復の意味 B リカバリーのビジョン C 治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点 D リカバリーを促す環境 E リカバリーを促す方法としてのグループ F さまざまな回復のためのプログラム G リカバリーのプロセス						
11	第11章 入院治療の意味 A 精神科を受診するという事 B 治療の器としての病院・病棟 C 入院中の観察とアセスメント D ケアの方向性を考える E 退院に向けての支援とその実際						
12・13	第12章 身体をケアする A 精神科における身体のケア B 精神科における身体を通じた看護ケアの実際 C 精神科の治療に伴う身体のケア D 身体合併症のアセスメントとケア E 精神科における終末期ケア						
14	第13章 安全をまもる A リスクマネジメントの考え方と方法 B 緊急事態に対処する C 緊急事態とスタッフの支援						
15	終講試験						
留意事項							